

七宝焼きの一貫生産体制を強みに、 複雑かつ高精度なデザイン加工に対応



立形マシニングセンタ

事業名

七宝焼きのデザインに応じた金型の複雑・高精度加工及び 短納期化への対応と多品種少量生産の実現



ベテラン彫刻作業者の 高齢化が課題の一つに

創業50年を迎えた当社は、「七宝焼き」という特殊な技術を用いて社章や校章等のバッジ、メダル、キーホルダー等の製造を手がけています。

例えば、全国の学校の校章は7～8割は当社で製造しており、その他にも大手企業の社章、警察や自衛隊の階級バッジ、官公庁向けのバッジなど取扱品目は多岐に及びます。

かつて七宝焼きを製作する同業他社は全国各地に点在していましたが、1998年（平成10年）の長野オリンピックを契機に安価な中国製品が台頭するようになり、国内の七宝焼き業者は年々減少傾向にあります。

また、七宝焼き業界はかねてより、鉄素材のプレスや色入れなど分業が進んでいますが、現在、一貫生産体制を整えているのは全国でも当社だけで、価格競争力や大口注文・短納期への対応などが強みになっています。

伝統工芸でもある七宝焼きは、図柄を金型に彫刻することから始めます。現在は機械を使って彫刻しますが、複雑なデザインの場合はベテラン職人が顕微鏡で確認しながら、一彫りずつついでに手加工で彫刻します。

緻密な彫刻技術が欠かせませんが、この作業において熟練した彫刻作業者が高齢化し、作業時間と精度にロスが生じるようになりました。

また、かつてはシンプルな図柄が大半でしたが、最近はパソコン等の普及もあって形状・色数ともに複雑かつ凝ったデザインが求められるようになり、加工の難易度が上がっています。しかも、多品種・少量生産の要求もあり、それらの対応に苦慮していました。



いちご市を宣言する鹿沼市の公式グッズになった七宝焼き

取引先からの信頼度が向上。 受注拡大につながる

以上のような①彫刻作業者の高齢化、②複雑なデザインに対応するために、本事業において高精度かつ意匠性の高いデザインに対応した立形マシニングセンタを導入しました。

導入に合わせて従業員の技術力向上を図ったことで、0.5mm～0.2mmまで切削加工精度を高めることができ、人員の省力化にもつながりました。

また、複雑な立体（3D）加工にも対応できたほか、仕上がりの線がよりきれいに表現できるようになり、品質向上にもひと役買っています。

これまでは1アイテムあたりの生産日数が手加工で10日程度要していましたが、同じクオリティーの製品が2日程度で生産できるようになり、課題だった短納期化を実現しました。複雑なデザイン加工の場合でも、従来の14日程度から8日程度に短縮しています。

以上のように、新たな設備投資によって様々な課題が解決できましたが、最も大きなメリットは取引先であるメーカーからの信頼度が上がったことでした。多品種・少量生産にも対応できるようになり、これまで以上に頼れる存在になったことで、新規業務の受注拡大にもつながっています。

高度な伝統工芸技術を 活かして新たな領域へ

キャラクターグッズやアクセサリー等は中国製の安価なものが世に溢れています。先に触れたとおり七宝焼き製品も例外ではありません。

そうした中で当社は、高度な伝統工芸技術を活かして、国産限定品の製造などに活路を見出していきたいと考えています。例えば、プレミアム感を重視するファッションや装飾品の世界に七宝焼きの魅力を加味するなど、ものづくりに関わる者として新たな領域に挑戦していきたいと思っています。



細かな作業に徹する七宝焼きの製造現場

mono
hojyo

本事業における気づきと学び



関口七宝 株式会社 代表取締役社長 関口 隆之

ものづくりに関わる業種・業界は例外なく、高齢化・人手不足・後継者問題等に悩んでいると思います。

特に、生産・製造工程における省力化が大きなテーマだと思いますが、当社はものづくり補助事業の支援を受けて省力化に取り組み、事業を一步前に進めることができました。

伝統工芸技術と最新の製造技術を融合させることで、新たな方向性が見えてきたことは、経営者として大きな収穫でした。



関口七宝 株式会社



〒322-0344
栃木県鹿沼市西沢町403
TEL：0289-77-2015
FAX：0289-77-2023
URL：http://www.sekiguchi-shippo.co.jp/
E-mail：info@sekiguchi-shippo.co.jp

【代表者名】 関口隆之
【設立年】 1970年
【資本金額】 1,500万円
【従業員数】 27名
【事業内容】 七宝焼き製品の製造・販売